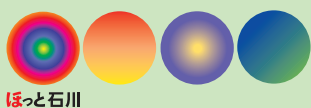
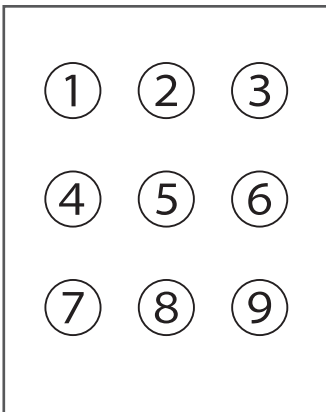


# ほっと石川 観光プラン2016



石川 県



- ①のと里山海道
- ②金沢城
- ③のと里山空港
- ④柴山瀨と白山
- ⑤北陸新幹線
- ⑥白米千枚田
- ⑦金沢港に停泊中のクルーズ船
- ⑧那谷寺
- ⑨ひゃくまんさん (石川県観光PRマスコットキャラクター)

## — はじめに —

観光は、経済効果が様々な分野に波及する裾野が広い産業であるとともに、交流人口の拡大に大きな役割を担っており、地域の活性化に大いに資するものであります。

本県はこれまで、平成17年3月に「新ほっと石川観光プラン」を策定し、平成23年3月の改定を経て、「3大都市圏1,000万人構想」や「首都圏誘客500万人構想」など具体の目標を掲げ、様々な施策を着実に進めてまいりました。

この間、北陸新幹線の金沢開業をはじめ、広域幹線道路網、小松空港やのと里山空港、金沢港など陸・海・空の交流基盤の充実に加え、加賀百万石の歴史・文化、豊かな自然や新鮮な海山の幸、おもてなしの心など、単なる物見遊山ではない「本物」の魅力の発信に取り組んでまいりました。

この結果、新幹線の玄関口である金沢のみならず、能登や加賀にも多くの観光客が訪れており、平成27年の県内観光入り込み客数は、現行の観光プランの目標値である2,500万人を達成する見込みとなりました。

こうした中、北陸新幹線敦賀開業や東京オリンピック・パラリンピックの開催、本格的な人口減少時代の到来による地方創生の動きなど、本県を取り巻く大きな環境の変化を見据え、今後10年間の本県観光の指針として、このたび、新たに観光プランを策定いたしました。

新たな観光プランでは、本県を繰り返し訪れていただく石川ファンの拡大をはじめ、今後の環境変化を見据えた海外誘客の促進、次代を担う観光人材の育成を基本戦略とし、平成37年の観光入り込み客数を3,000万人とするなど、具体の目標を設定したところです。

さらに、目標を達成するため、新たに200億円規模の「ほっと石川観光プラン推進ファンド」を創設し、施策の推進を財源面からも後押しすることといたしました。

本プランの着実な実現に向け、県民の皆様や関連業界の方々、各市町や隣県、新幹線沿線自治体ともしっかりと連携しながら、新幹線開業効果の持続・発展を図り、石川のさらなる飛躍と発展につなげてまいります。

最後に、策定にあたり精力的にご議論いただきました「ほっと石川観光プラン2016検討委員会」の委員の方々をはじめ、貴重なご意見をお寄せいただいた関係各位に、厚くお礼を申し上げます。

平成28年3月



石川県知事 谷本 正憲

---

# 目 次

---

## はじめに

### 序章 「ほっと石川観光プラン2016」策定にあたって ..... P.1

- 1 新プラン策定の意義
- 2 観光を取り巻く大きな環境変化
- 3 観光振興基本戦略
- 4 計画期間
- 5 誘客目標
- 6 7つの重点戦略とそれに対応する施策

### 第1章 観光をとりまく環境の変化 ..... P.3

### 第2章 観光振興の基本的な考え方 ..... P.7

- 1 石川県観光の現状
- 2 観光振興基本戦略
- 3 「ほっと石川観光プラン2016」の目標

### 第3章 重点戦略と新たな施策の展開について ..... P.11

- 1 新たな魅力づくりと満足度向上による石川ファンの拡大
- 2 石川ファンの拡大を図るためのおもてなしの向上
- 3 石川ならではの魅力の発信
- 4 広域連携による県域を越えた周遊観光の促進
- 5 海外誘客の促進
- 6 観光振興を担う人材の育成
- 7 交流基盤の整備と活用

### 第4章 推進体制 ..... P.17

- 1 役割の明確化
- 2 「ほっと石川観光プラン推進ファンド」の創設
- 3 県における推進体制の強化

### 「ほっと石川観光プラン2016」検討委員会委員 ..... P.20

## 序章

# 「ほっと石川観光プラン2016」 策定にあたって

## 1. 新プラン策定の意義

県では平成17年に「新ほっと石川観光プラン」を策定し、平成23年3月に北陸新幹線金沢開業を見据え改定を行い、平成27年の観光入り込み客数2,500万人、うち首都圏誘客500万人を目標に観光誘客の拡大に取り組んできた。

この結果、平成27年の観光入り込み客数は、全体で約2,500万人、うち首都圏では約450万人となると見込んでいる。

北陸新幹線開業によって新たな時代を迎えた石川の観光を、将来にわたって石川の活力を牽引する基幹産業として飛躍・発展させるためには、北陸新幹線敦賀開業などの陸・海・空の交流基盤の整備の進展、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催など大きな環境変化を見据え、今後10年間の石川の観光を展望した重要な指針が必要となることから「ほっと石川観光プラン2016」を策定する。

## 2. 観光を取り巻く大きな環境変化

### ■平成27年3月14日北陸新幹線金沢開業

多くの観光客が本県を訪れ、金沢のみならず、加賀・能登も賑わう

平成27年の県内観光入り込み客数見込み 約2,500万人（うち首都圏約450万人）

### ■交流基盤の整備の進展

北陸新幹線敦賀開業、クルーズ船の寄港の増加、陸・海・空の交流基盤の整備

### ■東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催

2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を千載一遇の機会とみて、国では訪日外国人旅行者数3,000万人を視野にインバウンド誘客の取り組みを強化することとしている。

### ■旅行ニーズの多様化など

個人旅行の増大、観光客の嗜好の多様化、ICTの発展とその利用拡大など

## 3. 観光振興基本戦略

■県民生活との調和を図りつつ、観光客の満足度を高め、繰り返し本県を訪れていただくよう石川ファンを拡大

■東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催とその後を見据えた海外誘客の促進

■次代を担う石川の観光人材の育成に向けた取組を強化

## 4. 計画期間

■平成28年度から平成37年度まで ※平成32年度に中間評価を行う

## 5. 誘客目標 (目標年次:平成37年)

### ■観光入り込み客数

・全 国	3,000万人	(平成27年見込	2,500万人)
・3大都市圏	1,300万人	(平成27年見込	920万人)
・首都圏	700万人	(平成27年見込	450万人)
・外国人宿泊者数	100万人	(平成26年実績	29万人)

## 6. 7つの重点戦略とそれに対応する施策

### 1 新たな魅力づくりと満足度向上による石川ファンの拡大

- (1) 旅行ニーズの多様化に対応した観光魅力の発掘・磨き上げ、旅行商品化の促進
- (2) 石川の優れた文化を活かした誘客の促進
- (3) 観光地の活性化とまちづくりの推進
- (4) MICE や教育旅行誘致の推進

### 2 石川ファンの拡大を図るためのおもてなしの向上

- 観光客の声を活かしたおもてなしの向上など

### 3 石川ならではの魅力の発信

- (1) 本県認知度向上のための効果的な情報発信
- (2) 旅行ニーズの多様化に対応したきめ細かな情報発信

### 4 広域連携による県域を越えた周遊観光の促進

- JRと北陸三県が連携したキャンペーンの実施など

### 5 海外誘客の促進

- (1) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会とその後を見据えた本県の認知度向上
- (2) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会を活かした誘客の促進
- (3) 外国人受入環境の充実

### 6 観光振興を担う人材の育成

- 次代を担う観光人材の育成など

### 7 交流基盤の整備と活用

- (1) 陸上交通網の活用
- (2) 航空路線の活用
- (3) クルーズ船の戦略的な誘致
- (4) 二次交通の充実

# 第1章

## 観光をとりまく環境の変化

平成27年3月14日の北陸新幹線金沢開業は、首都圏をはじめ長野県などの沿線地域や東北地方などとの時間距離の短縮と輸送能力の向上をもたらしただけでなく、開業前後にテレビや新聞・雑誌等マスコミに頻繁に取り上げられたことによって、本県があらためて注目を集め、認知度が飛躍的に向上するという好影響をもたらした。

北陸新幹線金沢開業に加え、小松空港、のと里山空港を活かした交流促進、金沢港に寄港するクルーズ船の増加、能越自動車道等の高規格幹線道路の整備促進など、陸・海・空の交流基盤の整備が整いつつあるが、さらなる充実に向け、今後も、北陸新幹線金沢・敦賀間の平成34年度末までの確実な開業、さらには大阪までのフル規格による全線整備の早期実現を目指すこととしている。

また、海外からの誘客については、我が国が世界から注目される絶好の機会となる2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控え、国を挙げた観光立国施策の推進により、訪日外国人旅行者数は昨年、2000万人という目標をほぼ達成したことを踏まえ、国においては新たな目標等を検討しているところである。

さらに、情報通信技術の発達により個人が旅行に関する情報を容易にかつ大量に入手することが可能になり、旅行の予約方法も旅行会社に足を運ばずに、インターネットを通じて行うなどその方法も多様化した。旅行形態も、個人旅行が主流となり、従前の物見遊山の画一的な旅行プランだけでは旅行者のニーズに対応できず、個人の嗜好に合わせた体験メニューなど、観光のニーズは多様化している。

### ■環境変化①：北陸新幹線金沢開業効果

#### ・首都圏等からの時間距離の短縮・輸送能力の向上

北陸新幹線金沢開業により、首都圏のみならず、長野県などの沿線地域や東北地方などとの時間距離が短縮され、輸送能力も大幅に向上した。

#### ・本県認知度の飛躍的な向上、観光客の増加

新幹線開業年である平成27年は、テレビ・新聞・雑誌等のマスコミに北陸や石川県が数多く取り上げられ、本県の観光地としての認知度が飛躍的に向上した。その結果、首都圏のみならず首都圏以外からの観光客も増加し、観光入り込み客数は、平成27年の目標値である2,500万人を達成する見込みとなっている（平成28年3月現在）。



近江町市場

### ■環境変化②：陸・海・空の交通基盤の整備

#### ・北陸新幹線敦賀開業と大阪へ向けたフル規格整備の促進

北陸新幹線金沢・敦賀間の平成34年度末の開業が予定されており、これにより北陸新幹線の県内区間がすべて開業する。

さらに、大阪までの早期全線整備に向けた取り組みが進められている。



北陸新幹線

・ **小松空港・のと里山空港の整備と活用**

小松空港については、北陸新幹線金沢開業により取り巻く環境が大きく変化する中、さらなる活性化に向け、羽田便についてはビジネス・観光の両面からの利用促進や航空乗継など航空の強みに磨きをかけるほか、国際化や国際物流拠点化を推進している。

また、のと里山空港については、新幹線開業効果を能登に波及させ空港の利用促進にもつなげる、新幹線と飛行機の相乗効果を発揮させる取り組みを推進している。



小松空港

・ **クルーズ船の増加**

金沢港に寄港するクルーズ船は、近年増加傾向にあり、今後は発着地を金沢港とするクルーズ船の戦略的な誘致を進めるとともに、クルーズ船の受入体制を充実し、県の内外からクルーズ需要の喚起を図る。



金沢港に寄港するクルーズ船

・ **高規格幹線道路等の整備**

平成27年2月に能越自動車道七尾氷見道路が開通し、能登地域と富山県を經由して3大都市圏と結ぶ新たな高速交通網が整備された。

また、平成25年3月の、のと里山海道無料化、平成27年度の白山白川郷ホワイトロード料金半額化等の取り組みを通じ、交流人口の拡大に努めている。

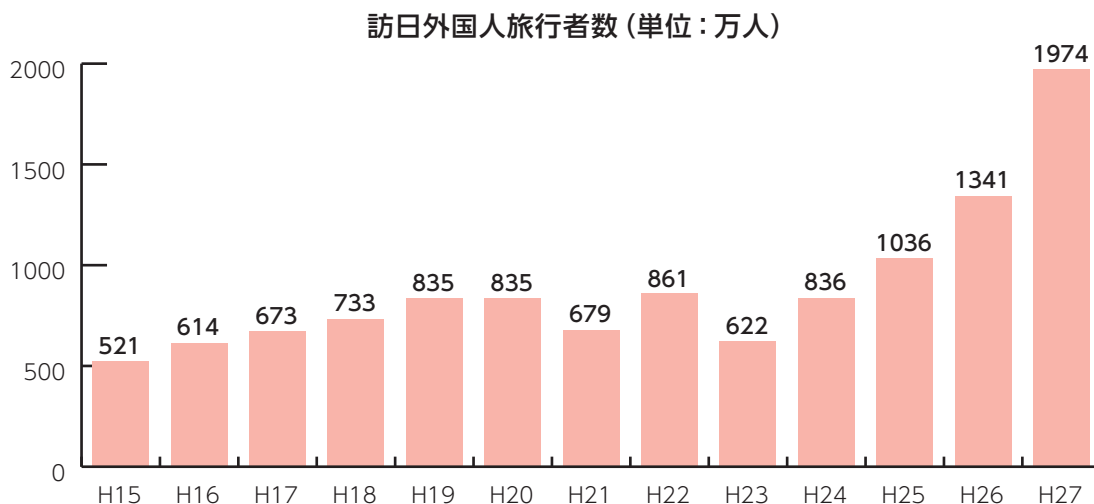


白山白川郷ホワイトロード

■ **環境変化③：東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けた国の取組強化**

2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、選手団の誘致や文化プログラムの開催に向け国内各地域では取り組みを強化している。

さらに、国では、オリンピック・パラリンピック後においても、これを大きな弾みとして、訪日外国人旅行者数3,000万人を視野にインバウンド誘客の取り組みを強化することとしている。



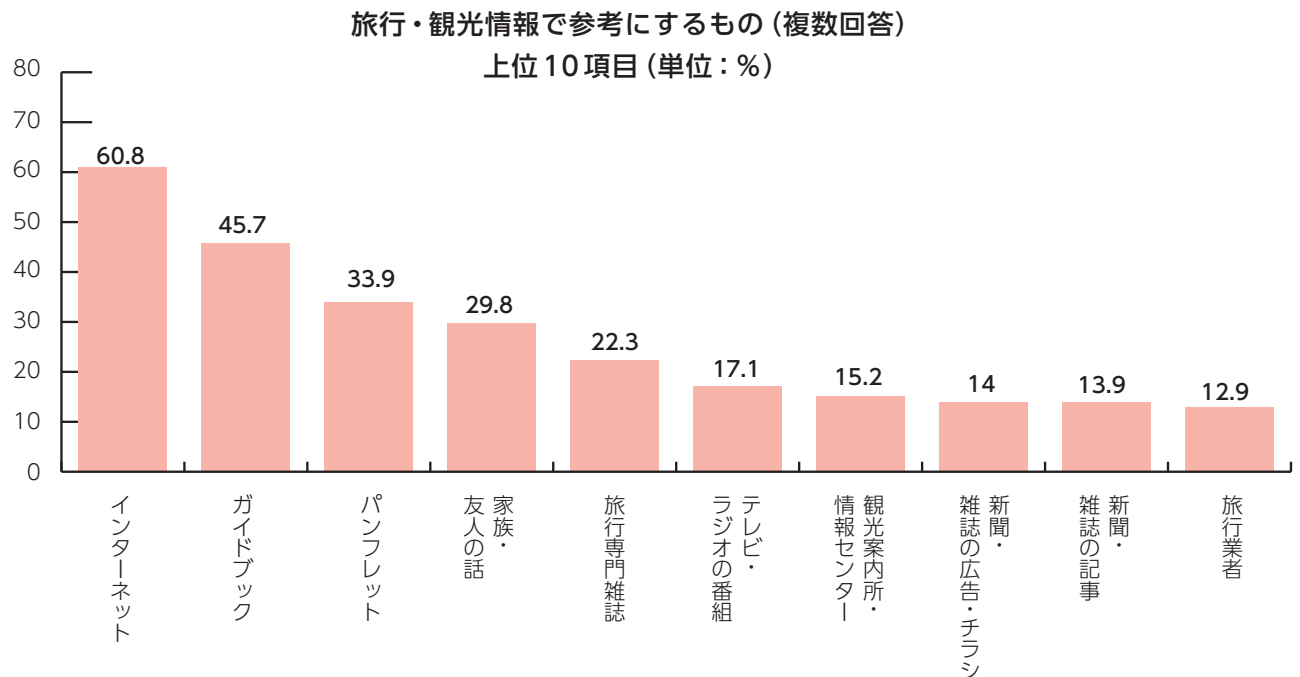
出典：日本政府観光局 (JNTO)



## ■環境変化④：旅行ニーズの多様化など

### ・ 情報通信技術の進展による観光情報収集手段

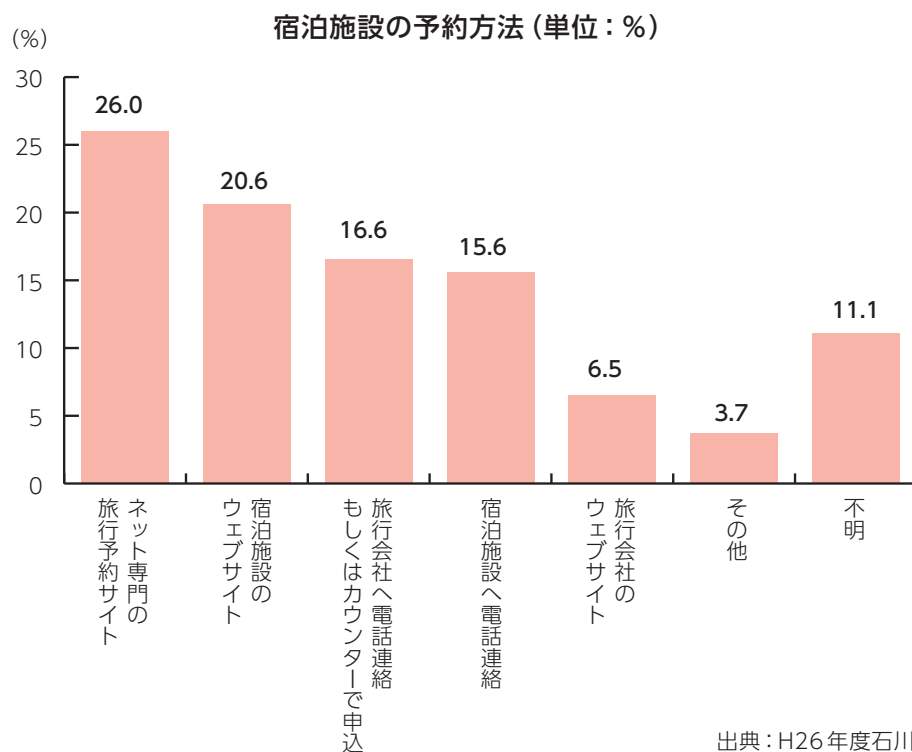
旅行・観光情報の収集方法は、インターネットが約6割を超えている。



出典：日本観光振興協会「国民の観光に関する調査」H26年度

### ・ 情報通信技術の進展による旅行予約方法

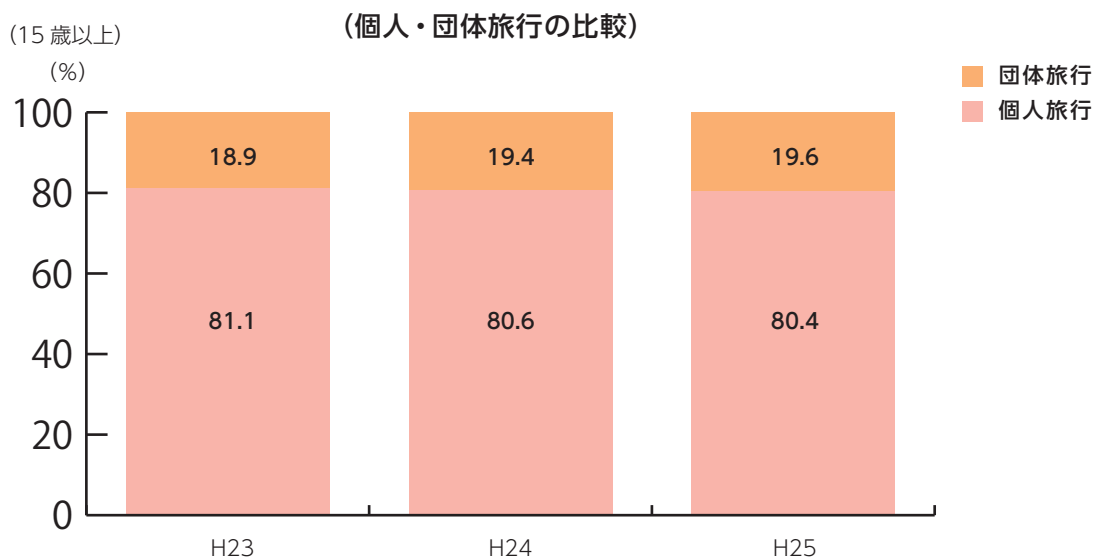
旅行の手配方法にもインターネットの利用が浸透している。



出典：H26年度石川県観光動態調査

・ 個人旅行が主流に

国内旅行の形態は、個人旅行が約8割、団体旅行が約2割を占めている。



出典：日本観光振興協会「国民の観光に関する調査」H26年度

・ 旅行ニーズの多様化

従来の観光名所を周遊する物見遊山的な観光に加えて、体験型の旅行など各個人の嗜好にあった多様な旅行メニューが開発され、その情報が集約されるウェブサイトも生まれている。

出典：株式会社ティー・ゲート「旅の発見」ホームページ

## 第2章

# 観光振興の基本的な考え方

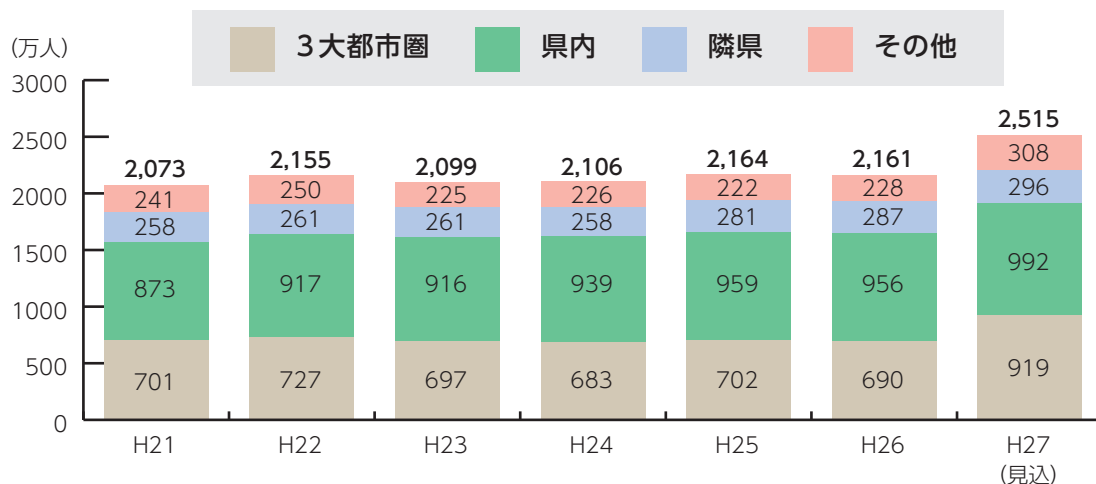
## 1. 石川県観光の現状

### ■観光入り込みの動向

#### ・全県的な観光入り込み客数の推移

北陸新幹線開業以前の平成26年までは概ね横ばいに推移しており、平成26年は約2,161万人であった。しかし、北陸新幹線金沢開業年である平成27年においては、観光入り込み客数は急増し、平成17年に策定した「新ほっと石川観光プラン」の目標値である2,500万人を概ね達成する見込みとなっている。

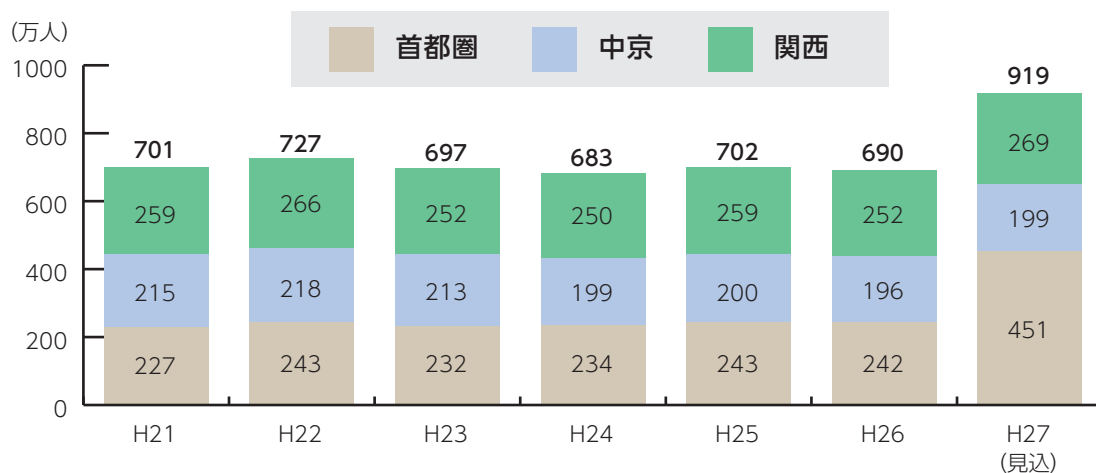
本県の観光入り込み客数の推移（単位：万人）



#### ・3大都市圏からの観光入り込み客数の推移

重点地域に位置付けている3大都市圏からの入り込み状況を見ると首都圏からの入り込みが大幅に増え、平成27年の見込みでは約920万人となっている。

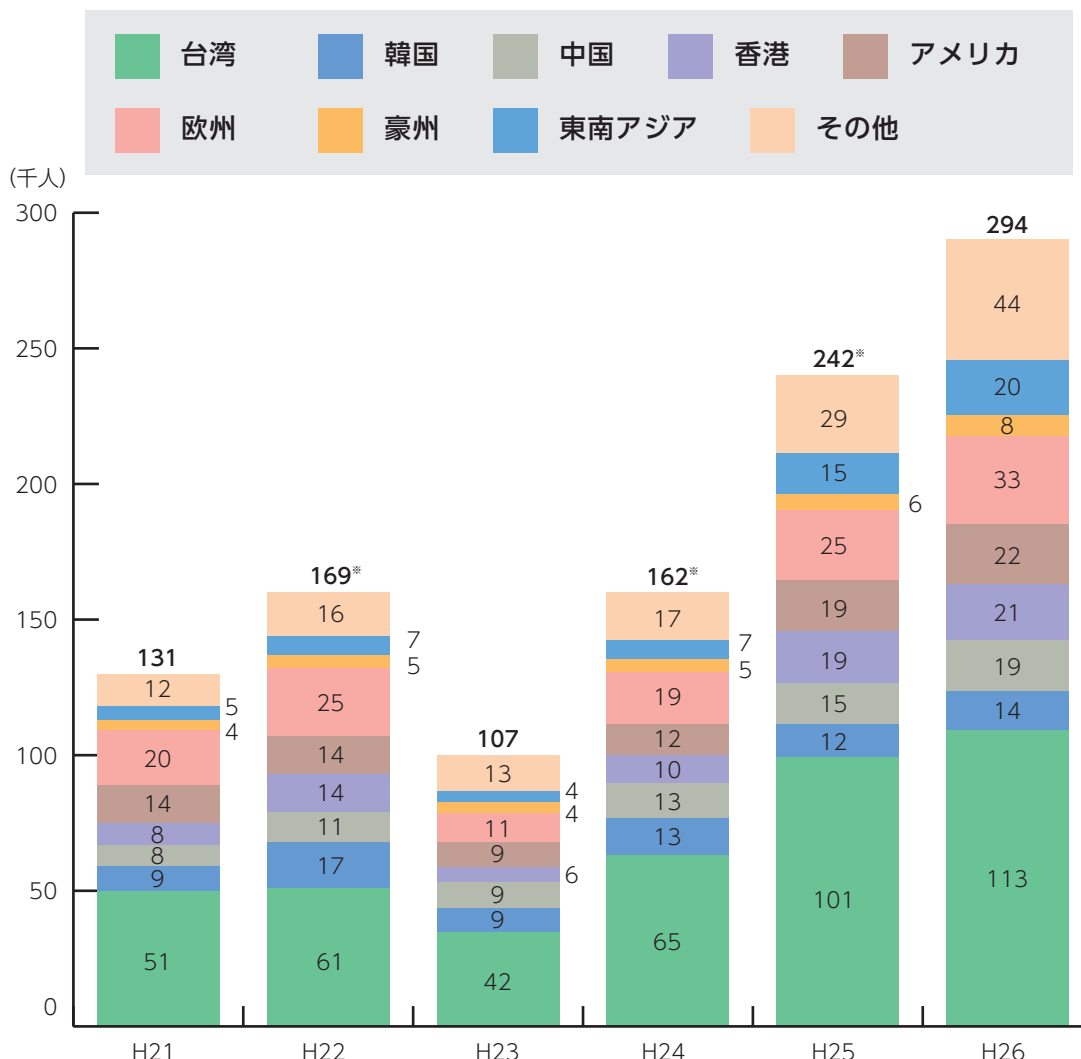
3大都市圏からの観光入り込み客数の推移（単位：万人）



・外国人宿泊者数の推移

平成26年は約29万人であり、最も多い台湾がほぼ4割を占めるが、近年はアジアだけでなく、欧米などからの来訪者が増加する傾向にある。

外国人宿泊者数の推移(単位:千人)



※合計と内訳の合算の差は、小数点以下を四捨五入し表記したことによる

## 2. 観光振興基本戦略

下記の3点を観光振興基本戦略として具体的な施策に取り組むこととする。

### ■ 県民生活との調和を図りつつ、観光客の満足度を高め、繰り返し本県を訪れていただくよう石川ファンの拡大を図る取組を強化する

県民生活との調和を図りつつ、石川ならではの個性を活かした質の高い「本物」の文化の魅力を、誰もが存分に体験できる観光地づくりを進め、観光客の満足度を高めることにより、石川に愛着を持ち、繰り返し訪れる「石川ファン」の拡大に繋げていく。また、県民一人ひとりが、自らの地域の魅力への愛着を深め、守り育てていく気持ちをさらに醸成していくことも重要である。

## ■東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催とその後を見据えた海外誘客を促進する

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催による我が国への注目の高まりを好機として、海外誘客をさらに促進するため、本県認知度の更なる向上や、北陸新幹線等の充実した交通インフラを活かした広域連携による新たなゴールデンルートづくりを目指し、オリンピック以降も海外旅行者に選ばれる魅力づくりを推進する取組を強化する。

## ■次代を担う石川の観光人材を育成する

生産年齢人口が減少していく中、北陸新幹線金沢開業により新たなステージに立った本県の観光を、地域間競争に勝ちぬき、将来にわたり石川の活力を牽引する基幹産業として飛躍・発展するため、次代を担う観光人材の育成に向けた取組を強化する。

# 3. 「ほっと石川観光プラン2016」の目標

## ■観光入り込み客数

観光入り込み客数・外国人宿泊者数については、観光振興施策の効果測定・評価の指標として位置付け、3大都市圏、東北地域及び海外からの誘客を推進する。

### ・全国

3大都市圏と東北地域を重点地域として、平成27年の観光入り込み客数の見込みである約2,500万人を目標年に2割増の3,000万人とする。

### ・3大都市圏

北陸新幹線敦賀開業を見据え3大都市圏からの観光入り込み客数を、平成27年の見込みである約920万人から目標年に1,300万人とする。

### ・首都圏

平成27年観光入り込み客数の見込みである450万人を目標年には700万人とする。

区 分	平成 27 年 (見込)	平成 37 年 (目標)
首都圏	450 万人	700 万人
中京圏	200 万人	600 万人
関西圏	270 万人	
3大都市圏	920 万人	1,300 万人

### ・外国人宿泊者数

国の訪日外国人旅行者増加に向けた取り組みや2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催による我が国への注目の高まりを追い風に取り組みを強化し、平成26年の約29万人を目標年に100万人とする。

区 分	平成 26 年	平成 37 年 (目標)
外国人宿泊者数	29 万人	100 万人

## 兼六園・金沢城公園の年間入園者数

平成26年度の340万人を目標年度に640万人とする。



兼六園

## コンベンション年間参加者数

コンベンションの年間参加者数について、平成26年度の62,900人に対し、目標年度に95,000人とする。



国際会議の誘致

## クルーズ船の寄港本数

平成26年の16本を目標年に40本とする。



クルーズ船

## 観光客の満足度

観光客の満足度は、観光団体及び事業者等が日々100%の満足をお客様に提供することを目標とする。



ボランティアガイドまいどさん

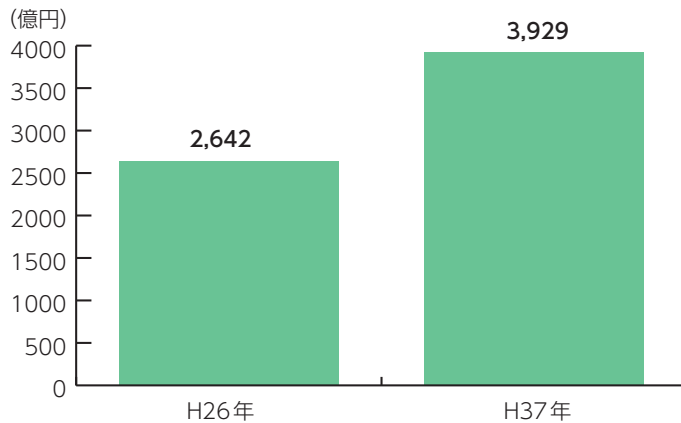
## 県内の観光消費額

観光消費額は、地域の観光振興の取り組み成果を表す重要な指標であり、平成26年の2,642億円を目標年には3,929億円とする。



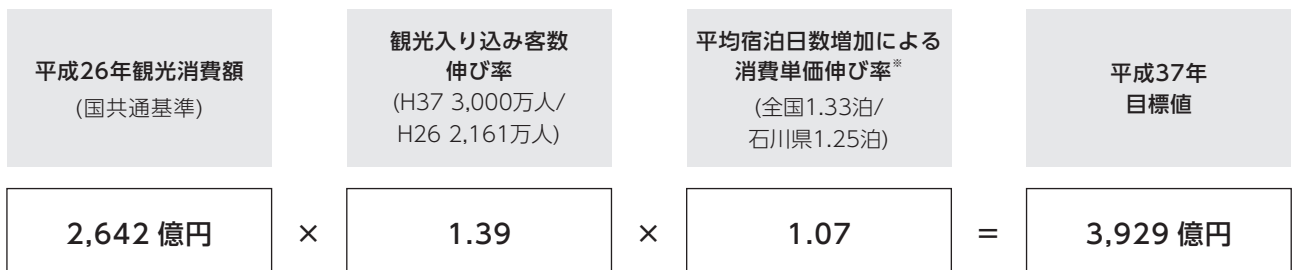
輪島朝市

観光消費額の実績と目標 (単位：億円)



※観光消費額：国共通基準観光消費額調査に基づき算出  
(宿泊費・飲食費・土産代・観光に関する消費額の総和)

### ・観光消費額目標値の算出過程



※「宿泊旅行統計調査」(観光庁)に基づく1回の宿泊日数を全国平均並みに引き上げ

## 第3章

# 重点戦略と新たな施策の展開について

## 1. 新たな魅力づくりと満足度向上による石川ファンの拡大

### (1) 旅行ニーズの多様化に対応した観光魅力の発掘・磨き上げ、旅行商品化の促進

#### ■観光魅力の発掘・磨き上げ

- ・県民生活との調和を図りつつ、地域の新たな観光魅力の発掘と磨き上げの取り組みを強化し、観光地としてのブランド力の向上を図る。  
(例) 能登・加賀・金沢における各地域での魅力づくりなど
- ・観光総合プロデューサー、観光ブランドプロデューサー等の助言を受け、新たな観光魅力の創造に努める。  
(例) 石川の音楽文化とロックの融合による新たな魅力の発信など



農業体験

#### ■体験観光プログラムや周遊型観光の旅行商品化の促進

- ・「本物」の旅を求める近年の旅行ニーズを踏まえ、石川ならではの体験観光プログラムの開発・旅行商品化に取り組む。  
(例) 産業観光、グリーンツーリズム、スローツーリズムなど
- ・新幹線開業効果を県内全域に波及させるための周遊型観光の旅行商品化を促進する。  
(例) いしかわ旅行商品プロモーション会議の開催、本県を周遊する旅行商品づくりへの支援など



九谷焼体験

### (2) 石川の優れた文化を活かした誘客の促進

- ・工芸、芸能、祭り、食など、石川の豊かで質の高い「本物」の文化の魅力を県内外に発信するとともに、その魅力を活かしたテーマ性の高い旅行商品の造成を推進するなど、石川の優れた文化を活かした誘客を促進する。  
(例) 日本遺産・いしかわ歴史遺産等の文化遺産を活用した観光誘客、首都圏アンテナショップを活用した伝統工芸や食文化、祭りのPR、能や邦楽、金沢芸妓の舞など石川ならではの伝統芸能体験や食のイベント開催、など



能 宝生流

### (3) 観光地の活性化とまちづくりの推進

#### ■地域の個性を活かした観光地の活性化

- ・地域の観光団体等の意欲的な取り組みを支援するなど、地域の魅力アップと活性化を推進する。  
(例) 観光地活性化推進事業など
- ・新幹線開業効果の県内全域への波及を図るため、能登、加賀、金沢それぞれの地域が一体となった魅力的な観光素材づくりや誘客イベントの開催など、受け地の観光魅力づくりを推進する。  
(例) 能登・加賀・金沢における広域観光対策(能登ふるさと博、加賀四湯博含む)、いしかわスイーツ博など



能登丼

### ■地域の特色を活かしたハード・ソフト両面からのまちづくりの推進

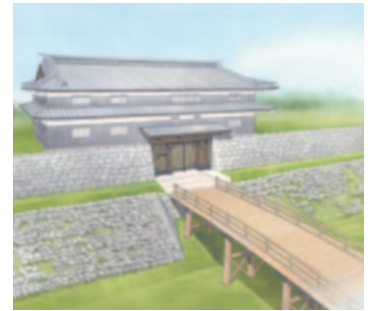
- ・伝統的な建造物を活かし風情のある街並みを形成するため、景観の保全と修景整備に取り組む  
(例) 観光地活性化推進事業(再掲) など
- ・高齢者や障がい者の方々など全ての人たちが安心して観光を満喫できる環境整備に努める。  
(例) ユニバーサルツーリズムの推進など



重要伝統的建造物群保存地区：ひがし茶屋街

### ■金沢城復元整備(第三期以降計画の推進)

- ・鼠多門・鼠多門橋の復元整備などを柱とする第三期整備計画に基づき、引き続き県都金沢のシンボル公園として、本物志向で史実性の高い整備を進め、「加賀百万石」のブランドイメージの向上を図る。



鼠多門・鼠多門橋復元イメージ

## (4) MICE や教育旅行誘致の推進

### ■MICE 誘致の推進

- ・MICE の開催を支援する助成制度を活用し、年間を通してバランスの取れた計画的なMICE 誘致を図る。
- ・コンベンション開催に必要な情報提供や相談対応等を担う(公財)金沢コンベンションビューローや市町、民間事業者との連携を強化する。  
(例) (公財)金沢コンベンションビューローの取組充実など

### ■アフターコンベンションの充実

- ・石川の誇る歴史や伝統文化等を活かした魅力あるアフターコンベンションプランを提案し、参加者のコンベンション終了後の県内観光を促進する。



修学旅行での民泊体験

### ■教育旅行の戦略的誘致の推進

- ・誘致可能性の高いエリア等にターゲットを絞るとともに、本県の強みを活かした学習プログラムを提案するなど、旅行会社と連携した戦略的な誘致に取り組む。

## 2. 石川ファンの拡大を図るためのおもてなしの向上

### ■観光客の声を活かしたおもてなしの向上

- ・アンケート調査による観光客の声を観光業界全体で共有し、具体的な改善、おもてなしの向上に繋げ、観光客の満足度向上を図る。  
(例) お客様の声を活かすおもてなし向上事業など

### ■事業者のおもてなし向上

- ・ホテル、旅館、交通事業者など観光関連企業の従業員等を対象とした研修会を開催し、おもてなし力の向上を図る。  
(例) 観光おもてなし塾の開催など



観光客の声アンケートハガキ



### ■ 県民のおもてなし向上

- ・ 県民を対象とした研修会を開催し、日常生活における県民のおもてなしの意識向上を図る。  
(例) 観光おもてなし講座の開催など



観光おもてなし講座

### ■ 金沢駅観光案内所等の機能・サービスの充実

- ・ 観光客のニーズに応じた観光案内機能やサービスを充実するなど利便性の向上に努める。



金沢駅観光案内所

## 3. 石川ならではの魅力の発信

### (1) 本県認知度向上のための効果的な情報発信

#### ■ 3大都市圏など重点エリアでの誘客プロモーションやイベントの実施

- ・ 北陸新幹線敦賀開業（県内全線開業）も見据え、JRをはじめとした交通事業者や大手旅行代理店等と連携した誘客プロモーションやイベント、アンテナショップ等を活用した情報発信を強化する。  
(例) 鉄道事業者と連携した車内広告、駅構内PR、大手旅行代理店と連携したPR、百貨店と連携した観光物産展の開催など

#### ■ 観光PRマスコットキャラクター「ひやくまんさん」の活用

- ・ 観光PRマスコットキャラクター「ひやくまんさん」を活用し、マスメディア、ホームページ、イベント等を通じた情報発信を強化する。



ひやくまんさん

### (2) 旅行ニーズの多様化に対応したきめ細かな情報発信

#### ■ 県観光ホームページ「ほっと石川旅ねっと」の充実

- ・ 観光情報が的確に提供できるよう、県観光ホームページ「ほっと石川旅ねっと」の内容の充実を図る。

#### ■ 観光客のニーズや嗜好に応じた魅力発信

- ・ 石川ファンの拡大を図るため、観光客のニーズや嗜好に応じた、きめ細かで多様な観光情報を提供する。  
(例) 観光ガイドブック「ちょっと石川」、「もっと石川」の発行など



ほっと石川旅ねっと

#### ■ いしかわ観光特使・県人会等による情報発信

- ・ いしかわ観光特使の口コミによる情報発信を推進する。
- ・ 全国各地の県人会等のネットワークを活かした情報発信を推進する。  
(例) 大手飲食店情報検索サイトと連携した、「いしかわ観光特使」による口コミ情報の発信など

#### ■ SNSなど効果的な媒体を活用した情報発信

- ・ SNSや旅行予約サイトなど、急速に利用が拡大しているICTを効果的に活用した情報発信に取り組む。  
(例) 大手旅行予約サイトと連携したSNSユーザーによる一押し情報の発信など



「ちょっと石川」「もっと石川」

## 4. 広域連携による県域を越えた周遊観光の促進

### ■ JRと北陸三県が連携したキャンペーンの実施

- ・ JRと北陸三県が連携した北陸エリアでの広域周遊観光を促進する。  
(例) JRと北陸三県が連携した誘客キャンペーンの展開

### ■ 隣県や新幹線沿線県等との連携

- ・ 環白山広域観光推進協議会、加賀越前広域観光推進協議会等での活動を通じて周遊観光を促進する。



Japanese Beauty Hokuriku  
パンフレット

## 5. 海外誘客の促進

### (1) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会と その後を見据えた本県の認知度向上

#### ■ 海外に向けた積極的な観光PR活動の展開

- ・ 旅行博覧会等への参加、海外メディアやインターネットを通じた情報発信等により、海外での認知度向上を図る。

(例) 海外旅行博覧会出展、海外メディア招聘、国内外の旅行会社との連携強化、世界最大手の旅行予約サイトを活用した情報発信(欧米豪、香港)、欧州における観光誘客業務を担う代理人の設置、在京海外特派員の招聘、国内ランドオペレーターと連携した誘客の促進など



海外旅行博覧会

#### ■ 石川のネットワークを活かしたPR

- ・ 海外に在住する石川県観光親善大使や海外県人会、県内留学生等のネットワークを有効に活用した情報発信に取り組む。

(例) 石川県観光親善大使、県海外事務所、県内留学生、JET 青年、海外県人会、海外進出企業等のネットワークを活かしたPR強化など

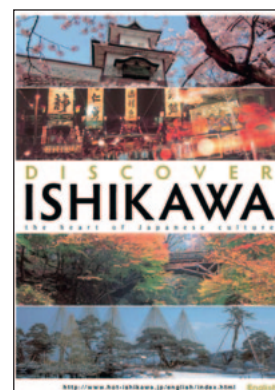


県内留学生

#### ■ 多言語による情報発信ツールの充実

- ・ 多言語によるホームページ・パンフレットや映像コンテンツを活用し、本県の観光魅力を広く海外に発信する。

(例) ホームページやパンフレットの多言語化、映像コンテンツの制作など



外国語パンフレット

### (2) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会を活かした誘客の促進

#### ■ 北陸新幹線など充実した交通インフラを活用した広域連携による周遊観光の促進

- ・ 北陸新幹線沿線自治体等連携によるJR等の周遊パス(北陸アーチパス等)を活用した新たなゴールデンルートの構築に取り組む。

(例) 北陸新幹線沿線自治体との連携による国際旅行博への出展やメディア招聘など

- ・小松空港・のと里山空港を活用した誘客を促進する。
- ・県内発着クルーズの前後泊ツアー等の新たな需要の開拓など、陸・海・空の充実した交通インフラを最大限活かした広域周遊観光を促進する。

### ■外国人旅行者のニーズに応じた戦略的取り組みの推進

- ・スポーツ・レジャーツアーや教育旅行の誘致など、各国・地域の観光ニーズに応じた誘客の取り組みを推進する。  
(例) 各国の市場に精通したアドバイザーやコーディネーターの活用、スポーツ・レジャー旅行、アフタースキー観光客の誘致促進など

- ・歴史や文化、伝統など石川の強みを活かし、本物志向の個人旅行者や富裕層の誘客に取り組む。

(例) 個人旅行の誘致強化、着地型旅行商品の充実、鉄道の魅力を活かした誘客(観光列車、北陸新幹線グランクラス等)、体験型旅行商品の充実(料理体験、和太鼓づくり等)、ドライブ観光の推進、SIT(スペシャル・インタレストツアー)の情報発信強化、長期滞在プログラムの開発(九谷焼陶芸教室等)など



あばれ祭り

### ■MICE 誘致の推進

- ・経済波及効果が大きい海外企業によるインセンティブ旅行・会議の誘致を推進する。

(例) ユニークベニュー・特別な体験の発掘、東京都との連携による相互の魅力を活かした視察旅行の受け入れ・共同パンフレットの作成、旅行博への出展など

### ■新規市場の開拓

- ・東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据え、今後誘客が期待できる新たな市場の開拓に取り組む。

(例) スペイン、イタリア、ブラジルなど



外国人旅行者

## (3) 外国人受入環境の充実

### ■観光事業者等への普及啓発

- ・観光事業者や市町を対象とした外国人旅行者受入環境セミナーを開催し、受入環境の充実を図る。

(例) 外国人受入環境セミナーの開催(飲食店多言語メニュー、無線LAN等)など



多言語メニュー作成サイト

### ■おもてなしの向上

- ・観光事業者等を対象としたインバウンド研究会の開催、観光案内所の機能充実、通訳ガイド研修の開催等により、おもてなしの向上を図り、石川ファンを拡大する。

### ■災害時等における避難誘導マニュアルの周知

- ・国が作成した外国人旅行者向け「災害情報提供アプリ」や市町、観光事業者向け「緊急時の初動対応マニュアル」の周知を図る。



災害情報提供アプリ

## 6. 観光振興を担う人材の育成

### ■次代を担う観光人材の育成

- ・本県の観光を将来にわたり石川の活力を牽引する基幹産業として飛躍・発展させるため、産学官の連携により次代の石川の観光産業を担う人材を育成する。  
(例) いしかわ観光創造塾の開催など

### ■おもてなし人材の育成・充実（一部再掲）

- ・ホテル、旅館、交通事業者など観光関連企業の従業員等を対象とした研修会を開催し、おもてなし力の向上を図る。  
(例) 観光おもてなし塾（再掲）の開催など
- ・県民を対象とした研修会を開催し、日常生活における県民のおもてなしの意識向上を図る。  
(例) 観光おもてなし講座（再掲）の開催など
- ・観光案内所職員のスキルアップ、観光ボランティアガイドの育成に取り組む。  
(例) ほっと石川観光ボランティアガイド連絡協議会との連携

## 7. 交流基盤の整備と活用

### (1) 陸上交通網の活用

- ・平成34年度末までの金沢・敦賀間の開業が確実に実現するよう整備を促進するとともに、大阪までのフル規格による早期全線整備を促進する。
- ・能越自動車道等の高規格幹線道路の整備を促進する。
- ・「ダブルラダー輝きの美知（みち）」構想を推進する。



のと里山海道

### (2) 航空路線の活用

- ・小松空港の国内線・国際線の航空ネットワークを活用した人・ものの交流を促進する。
- ・のと里山空港の利用促進と、にぎわい創出による地域拠点としての活性化を図る。



のと里山空港

### (3) クルーズ船の戦略的な誘致

- ・釜山港等の他港とも連携し、金沢港を発着地とするクルーズ船などの戦略的な誘致を進める。
- ・クルーズ船の受入体制を充実するとともに、金沢港の発着港としての定着に向け、県内及び周辺地域におけるクルーズ需要の喚起を図る。



クルーズ船

### (4) 二次交通の充実

- ・関係機関と連携した公共交通の利便性向上・利用促進を図るとともに、観光列車（JR七尾線「花嫁のれん」、のと鉄道「のと里山里海号」）を活用した観光誘客に取り組む。
- ・陸・海・空の交流拠点へのアクセス道路の整備、道の駅等の機能の拡充を推進する。  
(例) 加賀地域における二次交通の充実（観光名所を巡る観光タクシーの導入支援）



JR西日本「花嫁のれん」

## 第4章

# 推進体制

### 1. 役割の明確化

観光施策の推進に当たっては、県、市町、観光団体、事業者等がそれぞれの役割を認識し、相互に連携・協力・補完しながら推進することとし、各団体等の役割は、概ね次のとおりとする。

#### ■ 県の役割

全県レベルの観光プロモーション活動、観光イベントの開催、新たな観光素材の発掘など県観光連盟と連携し、本プランの目標達成に向け様々な施策を推進するとともに、兼六園・金沢城公園など本県を代表する観光施設の整備や北陸新幹線の敦賀延伸など陸・海・空の交通インフラの充実に努める。

#### ■ (公財) 石川県観光連盟の役割

県下全域を活動範囲とする唯一の観光団体として、観光プロモーション活動、観光イベントの開催、新たな観光素材の発掘、観光情報センターの運営、観光人材の育成などに加え、市町が行う観光振興事業への支援など、県と連携しソフト面における観光振興施策を推進するとともに、市町、観光団体等を代表して、県等に対し観光振興に関する政策提言を行う。

#### ■ 市町の役割

地域の観光資源の発掘・磨き上げ、他の市町との連携による新たな観光魅力の創出、地域の伝統文化の保存継承、地域の観光施設・インフラの整備など、地域の観光振興のけん引役として観光振興に関する施策をハード・ソフト両面から推進する。

#### ■ 市町観光協会等の役割

地域の観光振興を担う団体として、市町、観光関係事業者と広く連携・協力をして地域の観光資源の発掘、磨き上げや観光客のおもてなし向上、観光誘客イベントの実施などに取り組む。

#### ■ 観光関係事業者の役割

自らが観光振興の第一線に立ちお客様を迎える立場にあることを深く自覚し、一人ひとりのお客様から100パーセントの満足を頂くことを目指しておもてなしに心がけるとともに、市町、地域の観光団体と連携・協力をして観光振興施策に積極的に参画する。

## ■ 県民の役割

訪れる人々を温かく迎えるおもてなしを心掛け、県民の財産である地域の自然や文化を大切に、自らも心と体の健康増進のため積極的に観光リクリエーションを楽しむとともに、「住んでよし、訪れてよし」のまちづくりに積極的に参加する。

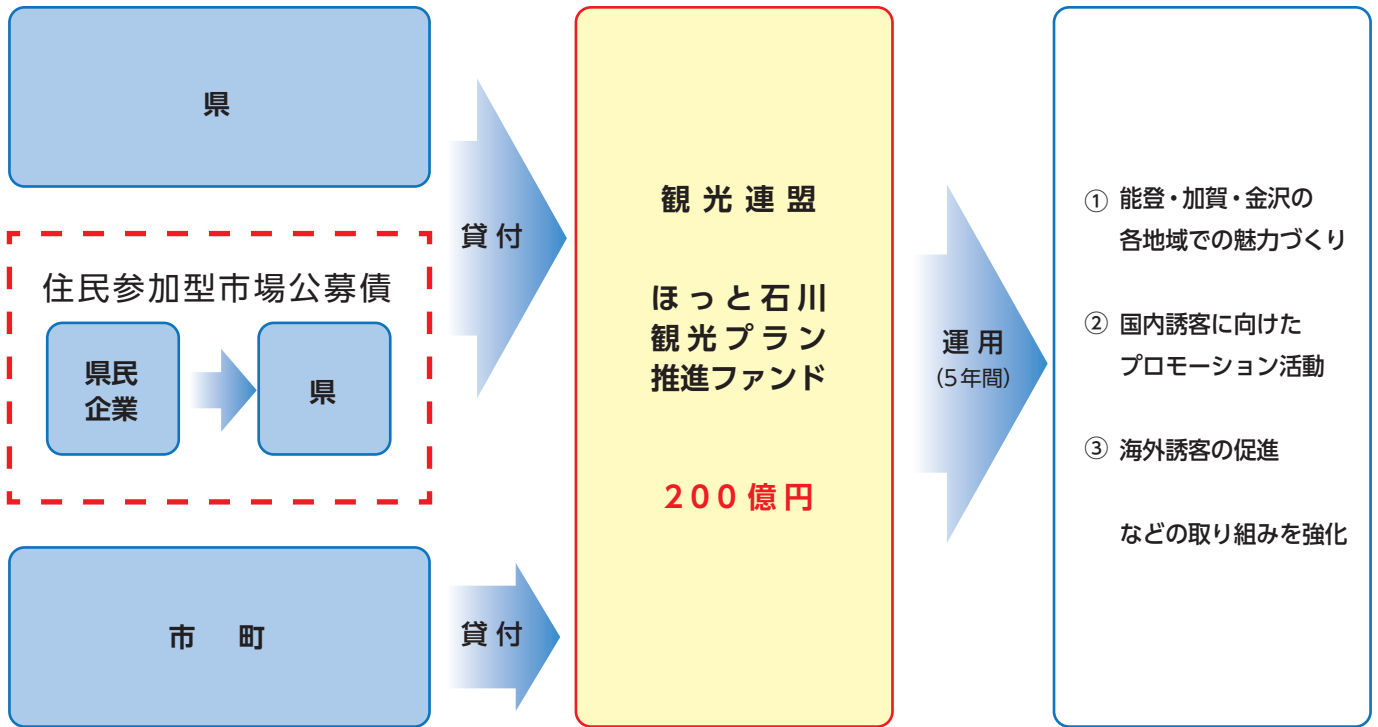


## 2. 「ほっと石川観光プラン推進ファンド」の創設

本プランの達成を財政面から後押しするため、従来の北陸新幹線開業PR推進ファンド（H25年9月～H30年9月：120億円）を統合し、新たに「ほっと石川観光プラン推進ファンド」を創設し、その運用益を活用して、プランの計画期間の前半5年間の

- ①能登・加賀・金沢の各地域での魅力づくり、
  - ②国内誘客に向けたプロモーション活動、
  - ③海外誘客の促進
- などの取り組みを強化する。

## ほっと石川 観光プラン推進ファンドのスキーム



### 3. 県における推進体制の強化

本プランの目標達成に向けて平成28年4月から従来の観光振興課と首都圏戦略課を、受地である県内の魅力づくりを担う観光企画課と県外での観光プロモーションを担う誘客戦略課に再編する。併せて、国内誘客体制強化の一環として、新たに大阪事務所内に西日本誘客推進室を設置し、関西・中京圏の営業を強化する。さらに、国際観光課には新たなゴールデンルートづくりや受け入れ環境整備を担う企画推進グループを設けることとする。

#### 観光戦略推進部の組織体制

##### 企画調整室

##### 観光企画課

- ・観光特使、おもてなし、人材育成支援
- ・県内イベント
- ・旅行商品化の促進

##### 誘客戦略課

- ・国内観光誘客 (全般)、MICE、教育旅行

##### 東日本誘客推進室 (東京事務所内)

- ・首都圏・東北地方での出向営業

##### 西日本誘客推進室 (大阪事務所内)

- ・関西圏・中京圏での出向営業

##### 国際観光課

- ・企画推進グループ (新たなゴールデンルートづくり、受入環境整備)
- ・アジア誘客戦略グループ
- ・欧米誘客戦略グループ

##### 国際交流課

## 「ほっと石川観光プラン2016」検討委員会委員

氏名	役職
石森 秀三 (委員長)	北海道博物館長 北海道大学観光学高等研究センター特別招聘教授
浅田 久太	金沢市旅館ホテル協同組合理事長
石井 祐司	全日本空輸(株)金沢支店長
伊東 芳隆	日本航空(株)北陸支店長
大藪 多可志	観光情報学会会長 (学)国際ビジネス学院学院長
尾崎 良一	石川県商工会連合会専務理事
小田 禎彦	(公社)石川県観光連盟理事長 (一社)能登半島広域観光協会理事長
蚊谷 八郎	石川県伝統産業振興協議会会長
加藤 敏彦	(公社)石川県バス協会会長
上口 昌徳	(一社)山中温泉観光協会会長
北 敏一	(一社)全国旅行業協会石川県支部支部長
小島 久枝	ホテル日航金沢チーフコンシェルジュ 日本コンシェルジュ協会会員
近田 正一	国土交通省北陸信越運輸局観光部長
坂野 宏行	(公財)金沢コンベンションビューロー専務理事
佐藤 博史	元 東日観光(株) 国際旅行事業部長
庄田 正一	金沢ホテル懇話会会長
谷口 和守	輪島市観光協会相談役 (公社)石川県観光連盟副理事長
土井 正幸	(一社)石川県タクシー協会会長
豆本 剛	(一社)日本旅行業協会中部支部石川地区委員
野中 雅志	西日本旅客鉄道(株)執行役員金沢支社長 北陸地域統括
早川 和良	石川県観光総合プロデューサー
眞鍋 知子	金沢大学地域創造学類准教授
宮本 外紀	石川県商工会議所専務理事

(計23名・委員は五十音順)

ほっと石川観光プラン2016  
検討委員会開催の経緯

平成27年8月21日 第1回開催  
平成27年10月21日 第2回開催  
平成28年2月10日 第3回開催





